

# 沖縄県の教育の現状について

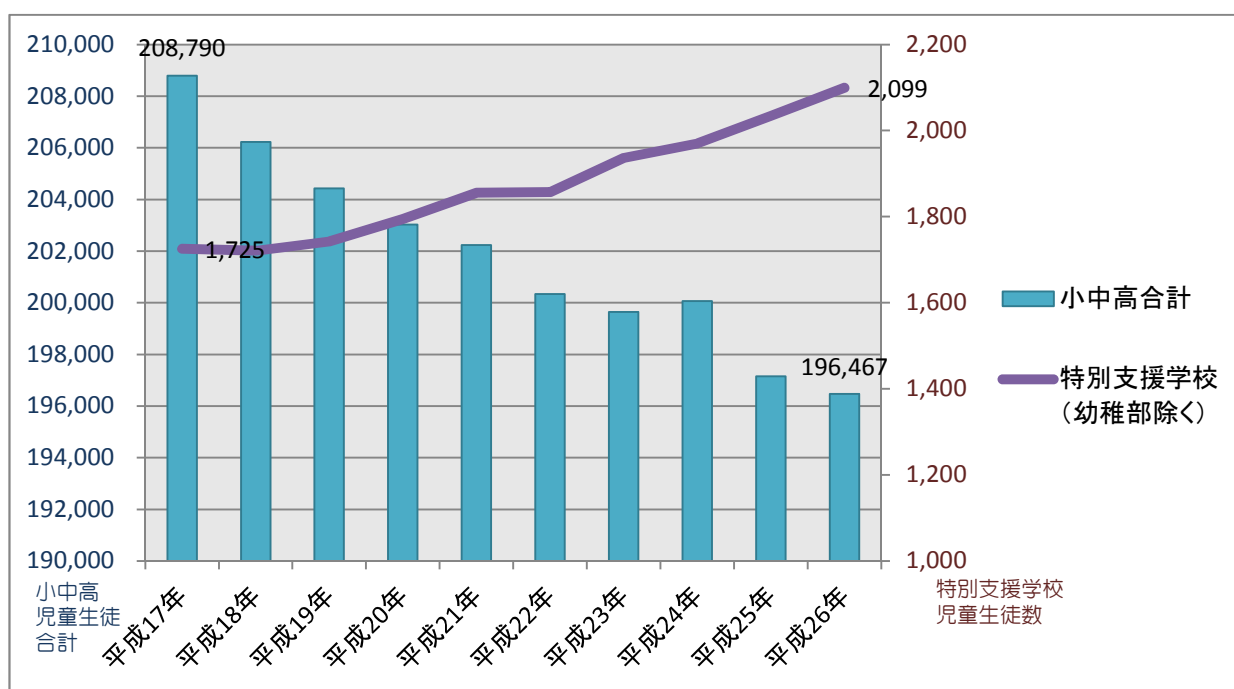
沖縄県教育委員会



# 1.児童生徒数の推移等について

- 本県における小学校・中学校・高等学校の在学者数は、全国と較べると、在学者数減少のペースは鈍いものの、減少傾向で推移してきています。

そのため、それぞれの地域の実情に応じて、教育的な視点から少子化に対応した活力ある学校づくりのための方策を継続的に検討・実施していく必要があります。



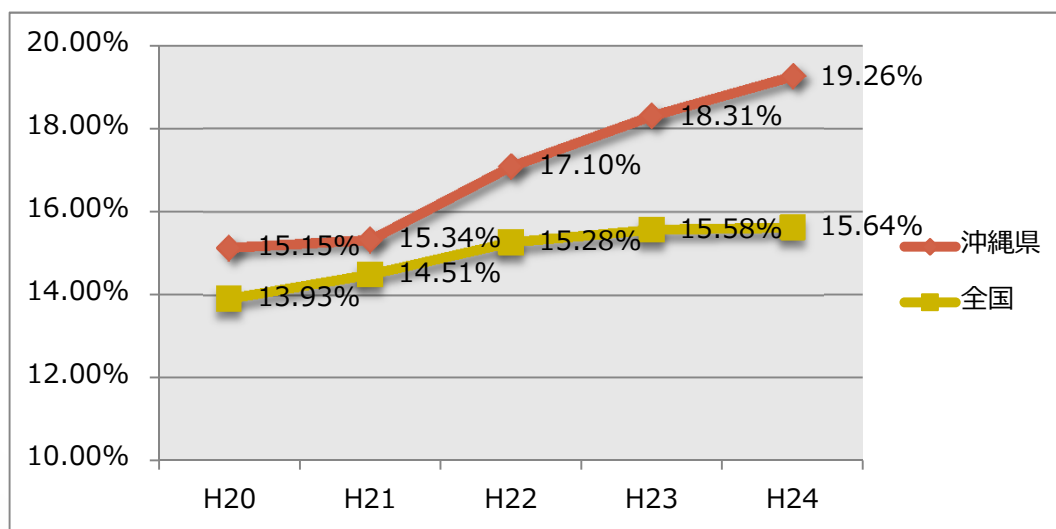
- 全体の児童生徒数が減少する一方、特別な支援を要する児童生徒は増加傾向にあるため、特別支援教育を行う環境の充実を図っていく必要があります。

●児童生徒のうち、学用品や学校給食などの費用に対する「就学援助」を受ける児童生徒の割合は、平成24年度実績で19.26%であり、全国平均の15.64%より3.62ポイント高い状況にあります。

低い県民所得や高い失業率等を背景に、生活困窮世帯が多く、就学困難となる児童生徒が年々増加しています。

経済的要因によって幼児児童生徒らの教育を受ける機会が損なわれないよう、教育に係る様々な負担軽減等を図ることにより、教育機会の拡充を図る必要があります。

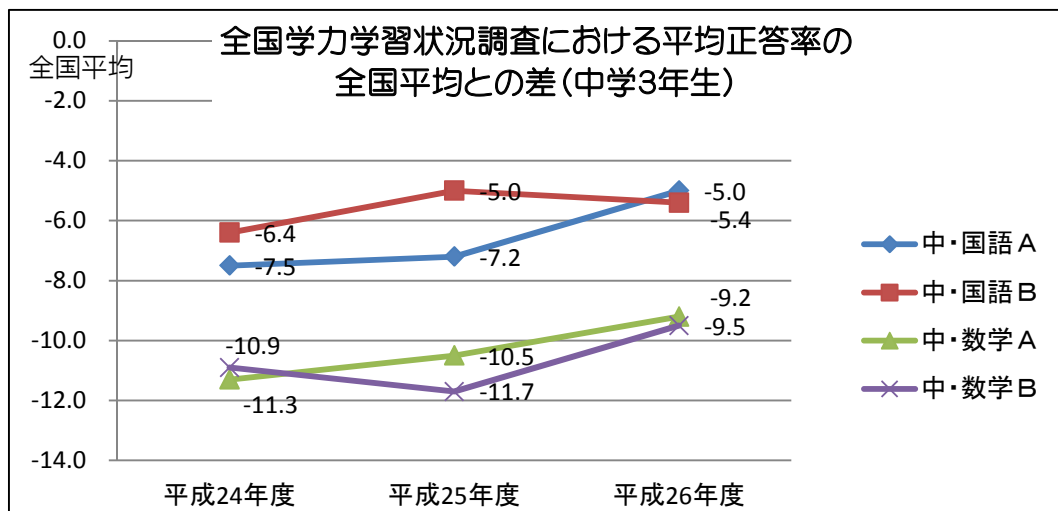
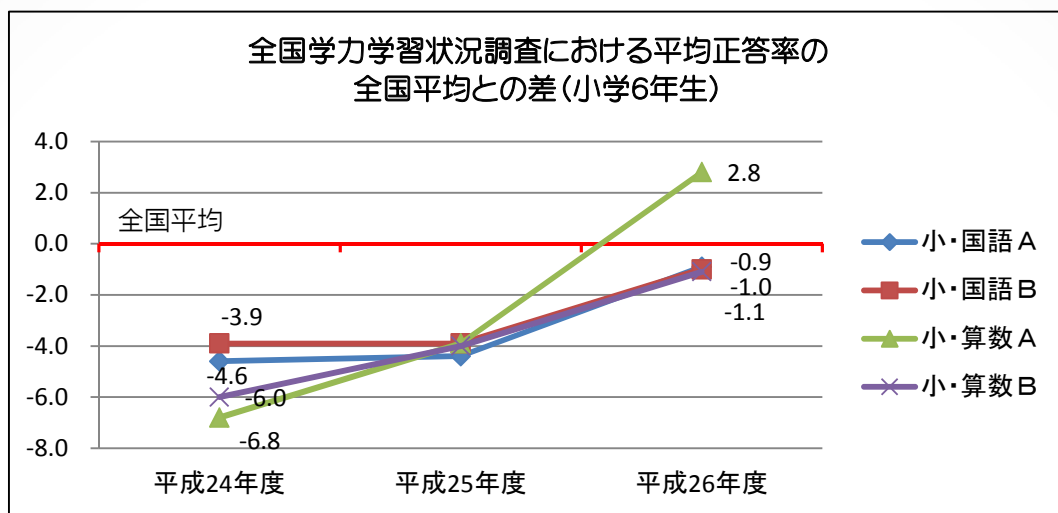
○就学援助を受けている児童生徒数の割合（要保護+準要保護）										（）前年度からの増減	
	H20		H21		H22		H23		H24		
沖縄県	15.15%	15.34%	(+0.19)	17.10%	(+1.76)	18.31%	(+1.21)	19.26%	(+0.95)		
全国	13.93%	14.51%	(+0.58)	15.28%	(+0.77)	15.58%	(+0.30)	15.64%	(+0.06)		
全国との差 (ポイント)	1.22	0.83		1.82		2.73		3.62			



●本県は、39の有人離島を抱える離島県であるため、離島や過疎地域等において、公平な教育機会の確保に向けて、複式学級の課題の解消、老朽化した校舎等の改築・改修等、地域の実情に応じた教育環境整備を推進するほか、教育に係る負担の軽減を図るため、高等学校及び特別支援学校が設置されていない離島からの進学に伴う家庭の経済的負担の軽減等を推進する必要があります。

## 2.学力・学習状況等について

- 「全国学力・学習状況調査」では、これまで、平均正答率が全国平均を大きく下回る状況が続いていましたが、平成26年度実施の調査では、小学校の算数Aで初めて全国平均を上回ったほか、小学校の他の科目においても全国平均並みに改善が見られました。  
中学校では、全国平均との差が初めて全科目で10ポイント以内に縮まる等、これまでの学力向上の取組の成果が見られます。



※調査対象の科目について、「A」は、主として「知識」に関する問題。「B」は、主として「活用」に関する問題

- 高等学校卒業者の大学等への進学率は、平成26年度で全国が53.8%に対して、沖縄が37.7%と、全国最下位の状況にあります。  
進路指導の充実等により目的意識の確立を図るほか、学ぶ意欲や能力があるにも関わらず、経済的な理由により、大学進学が困難な学生に対する支援策の拡充を図る必要があります。

大学等 進学率	H23	H24	H25	H26
沖縄	36.7%	36.2%	38.2%	37.7%
全国	53.9%	53.5%	53.2%	53.8%

# 3.生徒指導等について

文部科学省調査「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果より

●平成25年度の本県における、暴力行為・いじめ・不登校等の件数等については、以下の通りとなっています。

1 公立の小・中・高等学校における、暴力行為の発生件数は767件（前年度570件）で、国立、私立を含んだ児童生徒1千人当たりの発生件数は、3.9件（前年度3.0件）

(1) 暴力行為の発生状況

(公立の小・中・高等学校) …767件【前年度570件】197件増加  
 ※国立、私立を含んだ場合 …777件【前年度591件】186件増加

【暴力行為別の年度推移表】(公立の小・中・高等学校のみ)

区分	対教師				生徒間				対人				器物損壊				合計			
	小	中	高	計	小	中	高	計	小	中	高	計	小	中	高	計	小	中	高	計
H21	3	23	5	31	31	285	45	361	3	33	6	42	11	120	16	147	48	461	72	581
H22	3	39	11	53	27	253	45	325	1	24	5	30	13	105	16	134	44	421	77	542
H23	3	38	5	46	25	228	50	303	0	11	4	15	10	81	33	124	38	358	92	488
H24	4	30	7	41	41	276	45	362	2	25	3	30	24	81	32	137	71	412	87	570
H25	15	91	18	124	50	329	43	422	4	24	9	37	19	145	20	184	88	589	90	767

(2) 1,000人当たりの発生件数 (国公立小・中・高等学校)

	沖縄	全国
H21	2.9件	4.3件
H22	2.8件	4.3件
H23	2.5件	4.0件
H24	3.0件	4.1件
H25	3.9件	4.3件

2 公立の小・中・高・特別支援学校における、いじめの認知件数は539件（前年度3,538件）で、国立、私立を含んだ児童生徒1千人当たりの認知件数は、2.8件（前年度17.8件）

○いじめの認知件数の年度推移表(公立の小・中・高等学校及び特別支援学校)

区分	認知件数					1校あたりの認知件数									
	小	中	高	特	計	小		中		高		特		計	
						沖縄	全国	沖縄	全国	沖縄	全国	沖縄	全国	沖縄	全国
H21	104	208	48	3	363	0.4	1.6	1.3	3.1	0.7	1.0	0.2	0.3	0.7	1.9
H22	90	157	48	2	297	0.3	1.7	1.0	3.2	0.7	1.2	0.1	0.3	0.6	2.0
H23	72	179	44	1	296	0.3	1.5	1.2	2.8	0.7	1.1	0.1	0.3	0.6	1.8
H24	2,774	483	269	12	3,538	10.1	5.5	3.3	5.9	4.5	2.9	0.8	0.8	7.1	5.1
H25	228	251	50	10	539	0.8	5.7	1.7	5.5	0.7	2.1	0.6	0.7	1.1	5.0

○ 1,000人当たりの認知件数の全国比較  
(国公立小・中・高等学校)

	沖縄	全国
H21	1.9件	5.1件
H22	1.5件	5.5件
H23	1.5件	5.0件
H24	17.8件	14.3件
H25	2.8件	13.4件

○ いじめの解消・一定の解消が図れた割合(公立小・中・高・特)

年度	沖縄 (小・中・高・特)	全国
平成24年度	3,453件(97.6%)	97.3%
平成25年度	525件(97.4%)	97.6%

○ いじめの態様(公立の小・中・高等学校)

	小学校	中学校	高等学校
1位	冷やかしやからかい、悪口等 152件(52%)	冷やかしやからかい、悪口等 124件(42%)	冷やかしやからかい、悪口等 32件(39%)
2位	軽くぶつかる、たたかれる等 53件(18%)	軽くぶつかる、たたかれる等 56件(19%)	軽くぶつかる、たたかれる等 14件(17%)
3位	仲間はずれ、無視等 39件(13%)	嫌なことをされる、させられる等 27件(9%)	嫌なことをされる、させられる等 11件(13%)
4位	嫌なことをされる、させられる等 15件(5%)	パソコンや携帯等での嫌がらせ 25件(8%)	パソコンや携帯等での嫌がらせ 10件(12%)

3 公立の小・中学校における、不登校児童生徒数は1,946人(前年度1,633人)であり、国立、私立を含んだ児童生徒1千人当たりの不登校児童生徒数は13.1人(前年度11.2人)

(1) 不登校児童生徒数

(公立の小・中学校) …1,946人【前年度1,633人】 313人増

※国立、私立を含んだ場合 …1,955人【前年度1,672人】 283人増

【不登校の年度推移表】(公立小・中学校)

区分	小学校	中学校	合計
H21	353	1,389	1,742
H22	370	1,318	1,688
H23	412	1,401	1,813
H24	350	1,283	1,633
H25	415	1,531	1,946

(2) 1,000人当たりの児童生徒数

(国公立小・中・高等学校)

	沖 縄	全 国
H21	11.4人	11.5人
H22	11.2人	11.3人
H23	12.0人	11.2人
H24	11.2人	10.9人
H25	13.1人	11.7人

(3) 公立の小・中学校における不登校となったきっかけと考えられる状況(複数回答)

県の順位	小 学 校 (全国の順位と割合)		中 学 校 (全国の順位と割合)	
1位	不安などの情緒的混乱	24.8%(①35%)	あそび・非行	41.5%(④11%)
2位	無気力	19.3%(②23%)	無気力	18.3%(①27%)
3位	病気	13.0%(⑤10%)	不安など情緒的混乱	14.5%(②26%)
4位	親子関係をめぐる問題	9.2%(③19%)	学業の不振	12.1%(⑤9%)
5位	意図的な拒否	8.2%(⑨5%)	親子関係をめぐる問題	9.2%(⑥9%)
6位	本人に関わる問題	6.0%(⑧5%)	いじめを除く友人関係	9.1%(③16%)
	いじめ(14位)	0.7%(⑬1.7%)	いじめ(15位)	1.6%(⑮1.6%)

※不安などの情緒的混乱・・・登校の意志はあるが身体の不調を訴え登校できない等

無気力・・・罪悪感がなく迎えに行くと登校するが長続きしない等

病気・・・医師による診断の有無等に関わらない、心身の病気

意図的な拒否・・・学校に行く意義を認めない、好きなことに集中したい等

あそび・非行・・・遊ぶためや非行グループに入ったりして登校しない

学業不振・・・生成期の不振、授業がわからない、試験が嫌い等

親子関係をめぐる問題・・・親の叱責、親の言葉、態度への反発

いじめを除く友人関係をめぐる問題・・・仲違い等

※(%)は、各区分における不登校数に対する割合

(4) 公立の小・中学校における不登校児童生徒への指導状況結果(小学校:415人中、中学校:1,531人中)

①指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒

小学校:109人(26.3%) 中学校:441人(28.8%) (県:28.3% 全国:30.4%)

②登校には至らなかったが好ましい変化が見られるようになった児童生徒

小学校:64人(15.4%) 中学校:285人(18.6%) (県:17.9% 全国:20.4%)

4 県立高等学校における不登校生徒数は1,428人(前年度1,465人)で、不登校率は3.19%(前年度3.22%)

5 県立高等学校における中途退学者数は869人(前年度880人)で、中途退学率は1.9%(前年度1.9%)



# 4.児童生徒の体力について

文部科学省調査「平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果より

## ○平成26年度の本県の概要

### (1)体力テストの合計得点

<小学5年男子の例>

	沖 縄 県	全国平均
H24年度	53.53 点 (34位)	54.07 点
H25年度	52.96 ↓ (39位)	53.53 ↓
H26年度	52.84 ↓ (42位)	53.91 ↑

平成20年度と比較すると、中学校では男女共に平均得点は向上しているが、小学校では男女共に低下傾向にある。

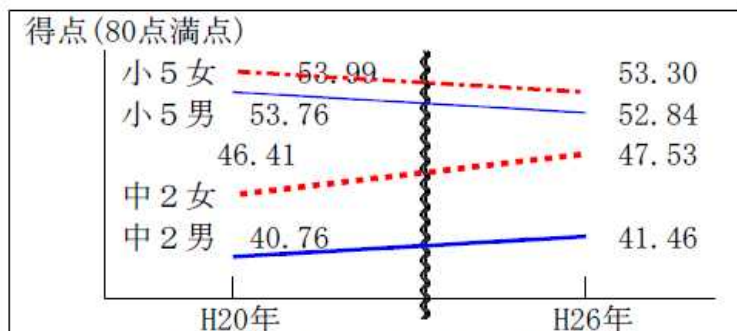


図1-沖縄県の体力テストの得点比較

[本県の特徴]

#### ○投力や握力が高い。

ボール投げ(m)→ 小男25.19 [1位]、小女14.64 [10位]、中男22.63 [1位]、中女13.76 [2位]

握力(kg)→ 小男16.65 [19位]、小女16.32 [17位]、中男30.18 [4位]、中女23.92 [14位]

#### ○持久力や走力が低い。

20mシャトルラン(回)→ 小男47.05 [45位]、小女35.71 [44位]、中男78.34 [47位]、中女53.27 [45位]

50m走(秒)→ 小男 9.50 [40位]、小女 9.83 [46位]、中男 8.11 [47位]、中女 9.05 [45位]

### (2)体格と肥満度について

○ 本県の特徴として、身長は、全国でもかなり低いほうに位置するが、体重はやや重めである。肥満傾向出現率は、昨年引き続き、北海道や東北地方など寒冷地に次いで高い傾向にある。

### (3)運動の実施状況について ※ ( ) は全国平均

ア、一週間の内、体育の時間以外に全く運動しない子の割合が依然として高い。

小男4.0% (2.9) [2位]、小女 7.4% ( 5.0) [1位]、

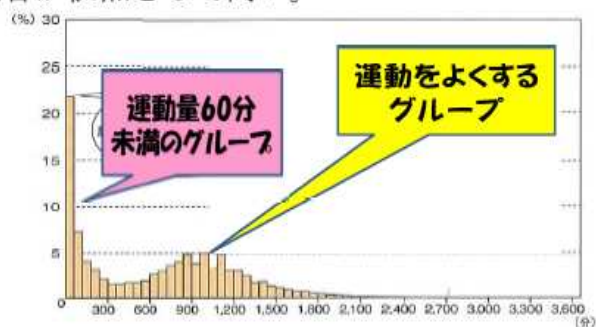
中男7.0% (5.0) [2位]、中女15.7% (14.8) [8位]

イ、一週間の総運動時間は、小学生が全国平均より多く、中学生は全国並みである。

小男720分 (605) [1位]、小女402分 (348) [5位]、

中男891分 (901) [35位]、中女634分 (630) [28位]

○全国と同様に、本県でも運動する子としない子の二極化が顕著となってきている。



<1週間の総運動時間の分布(銅:中2女)>

## 5.児童生徒の生活習慣等について

沖縄県教育委員会「沖縄県児童生徒の生活実態調査」結果より

- 平成25年に沖縄県教育委員会が、県内の小学5年生、中学2年生及びその保護者を対象に実施した「沖縄県児童生徒の生活実態調査」では、本県の児童生徒の生活習慣等について、以下のような点が指摘されています。

- 過剰な部活動は、学力、学習時間にマイナスの影響がある。
- 保護者が夜更かしだと、子ども夜更かしである。
- 「子連れで居酒屋」の慣習は、生活リズムが乱される可能性がある。
- 登校時の送迎率が、小で26%、中で34%である。
- 睡眠は学力向上に寄与する。
- 夕食時間は午後9時までに済ませる。(夕食摂取時刻は、学力向上に重要)
- 母親の帰宅時間も学力に関係がある。
- 学力面で、読書時間の寄与が学習時間の寄与より大きい。
- 朝食摂取は、学力に大きく寄与する。
- メディアの視聴時間の少なさは、学力に大きく寄与する。
- 家庭学習時間の短さ、部活動時間の長さは、睡眠時間との関わりもある。
- 家庭での約束事を決める。

### ○家庭学習の習慣化

#### (保護者)

- ・子の生活態度や学力に関心を持つ。
- ・保護者の学ぶ姿勢(読書等)を見せる。
- ・夕食時の会話などからコミュニケーション力を育み、自尊感情を高める。

#### (学校)

- ・家庭学習について、教師と保護者が話し合いや意見交換をし、お互いに理解し合う。
- ・主体的に学べるよう課題の出し方、内容を工夫する。



